十月二十五日　於本院球場

	トライ	ゴール	得點
本院	0	0	0
學士	1	1	3
	2	0	6
	1	0	3
	24		12

行軍直後の爲練習不足ではあつたが、目標とする高等學校との前哨戰として行ふ。

徳江氏主審のもとに二時三十五分學士のキックオフに始まる。

前半　本院の調子惡く、殊にバックのハンドリング不調にしてF.W.で對等のゲームをしながら押され勝ちで、三分、早くも我軍のマークをはづして右隅にトライさる。

（本0—3學）

十四分十ヤード右のラインアウトより、敵强引に拔いて中央右寄りにトライされ、ゴールなる。

（本0—8學）

二十七分、二十五ヤード線右のラインアウトから又ゴールポスト中央に學士トライ、ゴール。

（本0—13學）

後半　我軍依然元氣なく、十二分、十九分、二十四分、七トライ。ゴール一つを許し、以後好く調子を出して、三十分、ラインアウトより敵の左コーナーにトライ、渡邊のゴ七分、スクラムより本院パスよく左中央にトライ。

（本6—0明）

本院メムバー左の如し。

本院
F.W.　山藤山邊津房（弟）
　　永齋內渡米花田中
H.B.　玉谷利
　　兒神毛
T.B.　井（仲）
　　五池田鈴木（兄）
　　田中
F.B.　田
　　有

學士
F.W.　谷村武屋井寺田澤
　　下木久守大西和伊園
H.B.　渡井
　　石櫻
T.B.　田邊田野
　　吉渡角辰
F.B.　森
　　大

（本3—24學）

メムバー左の如し。

對明治生命　6—0勝

十月二十五日　於本院球場

	トライ	ゴール	得點
本院	1	0	0
明治	1	0	6
	0	0	0
	0	0	0

引續き中等科を主としたメムバーで對明治生命戰を行ふ。主審鈴木、キックオフ三時四十五分。

前半　中央線を狹んで一進一退する裡、次第に本院優勢となり、トライチャンスありしも二度ドロップアウトとなり、十八分、敵もトライを見へしが、ドロップフウトに防ぎ十五分、ルーズより本院トライ。

（本3—0明）

本院
F.W.　島田
　　鮫有米五渡田濤
　　田（弟）
　　津十
　　嵐邊中川
H.B.　池田（吉）
　　松元
　　百瀨
T.B.　實吉
　　池田（仲）
　　玉松
　　池田眞
F.B.　藤波

ホツケー部報告

最近日本に於て近代スポーツが俄かに勃興し、スポーツ全盛の世の中を形成しつゝあるが如き感がする。然るに遺憾な事には我々のホツケーは未だポピュラーな競技とは言ふ事が出來ない。抑々此の競技の本場は英國であつて、ロンドン郊外だけでも數十のホツケー競技場がある程であるが、我が國に於ても昔からホツケーに似た競技が山奥の子供によつて盛んに遊ばれてゐたのである。本格のホツケーが輸入されたのは明治三十九年で、慶應義塾其の他二三の學校によりて弘められ、其

等先驅者の多大なる貢献によつて次第に隆盛の道を辿り、來年のロサンジェルスのオリムピック大會に出場する程度にまで進歩してゐる。併し一般民衆には未だよく理解されて居ないのは遺憾である。

本院に於ても遠山榊原兩先生の御指導に基いてホッケーを始め戸山學校で鍛へられた優秀な技術を我々に傳へられたのである。我々未熟者が日本ホッケー界の重鎮たる兩先生の御指導をうけた事は誠に感謝に堪えない。然るに今兩先生は本院を去られ、我々は生みの親育この親に別れた孤兒の如き悲哀を感じつゝある。併し我々はたゆみなき熱心な練習により、たとへ僅かであらうとも確かに進歩を認められて來て居る。今度とても我々は益々熱心なる斯道への献身により本院の名をホッケー界に知らすべく最善の努力を爲す決心である。我々の微意をくみ、我々の志の達成に援助されんとする方は奮つて練習に參加されん事を切望します。中等科の人でも遠慮せずどし〳〵練習において下さい。そしてホッケー部を益々隆盛に導かれん事を心から希望します。

對帝大戰　一對七　敗

四月二十九日午前十一時十五分より駒場球場に於て小林氏審判のもとに開始さる。

本院　1 {0—2 / 1—5} 7　帝大

前半　始め本院敵を押しサークル内で相當シュートもあつたが、惜しい所で得點にならず、斯くする中その反動とハーフのウイングのマークのないのに乘じ、忽ち敵に一點を入れさして了つた。

其の後も學校しばしば敵の心膽を寒からしめたが、F.W.スチック大に失する爲とハーフの追從の及ばないため、並にR.W.の中側に入り過ぎた爲等原因して、徒に敵を壓迫するのみだつた。敵の攻撃の時にはフールバックの働にぶく、ハーフの未だ戻れない中に敵にゴールを許してゐた。それもハーフがウイングをマークしない爲敵のウイングは防害なしに球をドリブルし得たからである。斯くの如き中に又敵に一點を與へ前半終る。

後半　益々本院調子惡く、F.W.は調子惡い中にもバック面より活躍してゐた。後半は續けて敵にゴールを許して了つた。この原因を考へて見るのに、先づ前述したことの他にH.C.の業にぶく、L.H.の餘りに中側に入つたことR.H.の球の弱いこと、R.B.の餘裕のあるのにもかゝはらず、直接球を打つて空振し、L.B.の勇氣の足らざること、又F.W.に於てはL.W.の球の止の方の惡いことパスの時機を考へないことL.I.はドリブルが大きいこと、F.W.線より下つてゐたこと、F.E.のパスをせずに敵を抜かうとして敵のF.B.にタックルされたこと等大きな原因であつたらうと思ふ。戰況は略して、後半一對五で結局七對一で大敗した。

メンバー左の如し

F.W	R.W	津路
	R.I.	島大
	F.E.	北(弟)
	L.I.	同輕
	L.W	津原
		小笠
H.B.	R.H.	植村
	H.C.	山田
	L.H.	有地
F.B.	R.B.	有地(兄)
	L.B.	濤川
G.K.		澁谷

對成城戰　七對一　勝

五月十八日午後四時十五分より本院球場に於て相澤中村審判のもとに開始する。

本院　7 {5—0 / 2—1} 1　成城

前半　F.C.ブリに勝ち、L.I.にパス、L.I.F.C.にパス、F.C.L.I.にパス、L.I.サークル前にてF.B.を抜き、ゴールに肉迫し、G.K.の突込をすかしてゴールイン。時に一分。三分同方法にて、L.I.又も一點。十五分島津のシュートに又一點。二十分F.C.のシュートに又一點。二十五分P.E.を得て、L.I.シュートして又も一點、合計五點成城零に前半終る。

後半　五分F.C.一點を入れ、十分L.I.又一點を加へた。廿五分敵のL.W.のシュート球上りてG.K.止め損れて、初めて敵に一點與へる。後半は降雨盛にして思ふやうに活躍出來ずして本院二點、成城一點にて後半終り、結局七對一で勝つ。

當日メーバー左の如し。

F.W.	R.W	有地(兄)
	R.I.	島津
	F.C.	北大路
	L.I.	同(兄)
	L.W	津輕
H.B.	R.H	植村
	C.H.	山田
	L.H.	有地
F.B.	R.B.	周布
	L.B.	濤川
G.K.		澁谷

對浦和高戰(關東高校リーグ)　四對二　勝

五月三十日午後三時半本院球場に於て高月中岡兩氏審判の下にプリオフ。

メンバー左の如し。

本院	R.W	有地(兄)
	R.I.	島津
	C.F.	北大路
	L.I.	同(弟)
	L.W	周布
	R.H.	植村
	C.H.	山田
	L.H.	有地
	R.B.	津輕
	L.B.	濤川
	G.K.	澁谷
浦高	R.W	石田
	R.I.	立場
	C.F.	太田
	L.I.	利野
	L.W	末的
	R.H.	元田
	C.H.	吉田
	L.H.	矢崎
	R.B.	小宮
	L.B.	細田
	G.K.	宮

前半　七分島津北大路(兄)のパスをサークル内に受けてシュートせんとするや敵G.K.飛びてくるのを少し待つて左側を拔いてゴールイン、先づ最初の一點を得。十五分敵F.C.のシュート決つて一對一となる。廿分北大路(兄)のシュート、島津G.K.の蹴らんとする球をたゝき下してゴールイン。二十九分敵L.I.サークル内の混戰中右よりの球を直接シュートして二對二に追ひつめて來た。

後半　この一戰最初に一點を入れた方が勝つだらうと豫想された。いよ〳〵緊張を以て對戰する浦和も十分の休みに元氣を回復して對戰する。兩軍はもの凄い元氣だ。審判の笛でいよ〳〵後半戰は始まつた。浦和始めぐつと押しよせて本院軍を壓迫したがF.B.の津輕濤川日頃の績習の腕を見せて敵にゴールを許さず、斯くて八分北大路一點を入れて三對二となつた。之より本院は樂に戰ひ北大路(弟)又一點を加へて敵に致命傷を與へ勝を確實にした。後半浦和點なく先づ關東高校リーグ第一戰に勝つことを得た。今日の津輕、植村、有地弟、島津の奮闘は殊に目覺しかつた。

對商大豫科戰　二對一　勝

六月十三日午後一時四十五分本院球場に於て北大路、浦生兩氏審判の下に開始さる。

メンバー左の如し。

本院	R.W.	有地(兄)
	R.I.	小笠原
	C.F..	北大路
	L.I	津輕
	L.W	周布
	R.H.	植村
	C.H.	山田
	L.H.	有地
	R.B.	北大路(弟)
	L.B.	濤川
	G.K.	澁谷
商大豫科		尾地
		深澤
		智地
		武田
		菊里
		縫松
		織根
		中泉
		中本
		村和
		藤

前半　本院軍始終壓迫してゐた。然し折角のチャンスはありながらものし得ず、惜しいこと數回。二十分小笠原のシュート當り惡くG.K.正にけらんとすると北大路(兄)プシュして一點を得。バック面は割合に樂に防いでゐた。前半一對零で終る。

後半　十五分北大路兄シュートを掠めてゴールイン。二十五分敵のI.I.好シュート球上りて敵最初の一點を得。その後一退一進にてタイムアップとなり二對一にて勝つ。

對成城戰（關東高校リーグ決勝職）負

關東の高等學校でホッケーをやつてゐるのは成城と浦和と本院の三校で、今年は時期が遲れた爲一回戰づつすることになつた。此の間本院は浦和を四對二で破り、浦和は成城を破つた。そうなると本院の勝は先づ決して了つた樣なものだつた。先づ優勝盃はこつちのものと思つてゐた所豈はからんや三對零で零敗を喰つて了つたのである。結局三校各の一回宛勝つたので決勝戰は秋にのびて了つた。戰況は略す。メンバーは對浦和と同じ。日は六月十五日だつた。

對帝大戰　八對三　敗

九月十三日午前十時四十五分より本院球場に於て小林蒲生氏審判のもとに開始。

帝大　8（1—1 / 7—2）3　本院

兩軍のメンバー左の如し。

帝大		本院	
棟方	R.W	有地（兄）	
松本	R.I.	佐藤	
高月	C.F.	北大路	
竹井	L.I.	同（兄）	
五十嵐	L.W	周布	
野口	R.H.	植村	
北大路	C.H.	山田	
椿	L.H.	有地	
和田	R.B.	中村	
中岡	L.B.	澁川	
辻	G.K.	澁谷	

前半　始まりて直ぐ本院敵のゴールに肉迫したが得點に致らず返されて、院軍危機に陷り七分帝大先づ最初の一點を擧ぐ。十五分院軍敵陣を襲ひ北大路（兄）のシュートゴールにすれ〳〵に入る。漸く一點を取り戻し一對一となりその後白熱戰を續けハーフタイムとなる。

後半　ブリの後三十秒帝大のF.W.好調にて一點。其の後三十秒又一點。その後三十秒又一點。斯く三十秒毎に五點入れられて六對一とはなされた。其の後院軍の奮鬪報いられ、十五分C.L.を得て、北大路（兄）一點を入れ、續いて二十五分有地兄突込み功を奏して又一點六對三に追ひついたが帝大調子よく二十九分、三十五分に二點を入れ、タイムアップとなる。今日の試合に津輕、島津、小笠原が病氣で出られなかつたのは殘念だつた。

對成城戰　四對四　分

九月十五日午後一時四十五分より、本院グランドに於て北大路、井田兩氏審判の下に行ふ。

成城　4（2—0 / 2—4）4　本院

前半　本院ブリ後F.W.好調に敵陣をおびやかすも、得點に致らず、敵一擧その球をF.W.に返すや、F.W.調子よく我が陣地に肉薄し、五分先づ敵に一點を與へる。暫し我が軍調子出ですして、十分又も敵に一點を與へる。二點離された我が軍益々調子惡くF.W.得點にならず後の廿五分は兩軍零で終る。（前半二對〇）

後半　我が軍のF.W.の位置を變じて、逆襲を企つ。三分北大路（弟）敵のゴール前の混戰中當りよくキーパーの右を拔きて最後の一點を擧ぐ。敵奮然として七分一點を入れ三對一とリードされた。十五分敵一點を擧げ四對一となる。愈々勝敗も事實上決したかと思はれたが、廿分北大路（兄）上つて來た球を一寸はれて一點を加へ、廿二分北大路兄シュートして又一點、廿九分山田からのパスを北大路（兄）追ひ打ちして又一點を加へ、遂に四對四迄こぎつき其の後院軍機會を逸すること數回、遂にタイムアップとなる。今

日の中村の働きは抜群だつた。兩翼のハーフは少しウイングマークが足りないと思ふC.H.はE.W.の追從にむらがあつた。有地（兄）はウイングとして下り過るがR.I.になつてからの功績は大きかつた。他は普通の出來で始めからの調子だつたらもう少しどうにかなつたらと思ふ。

本日のメンバー左の如し。

本院　R.W. 副島（兄）　R.I. 有地（兄）　C.F. 北大路　L.I. 北大路　L.W. 周布　R.H. 植村　C.H. 山有　L.H. 中田　R.B. 村川　L.B. 澁谷　G.K. 澁

成城　木村　見田　井邊　井田　田水　青木　鶴島　石田　金中　内井　清

對ミカド倶樂部　七對四勝

九月二十四日午前十時二十五分、本院球場に於て北大路、岡田兩氏審判の下に開始。

本院　7（3—1、4—3）4　ミカド

前半　七分C.H.山田、R.I.有地（兄）F.C.北大路（兄）渡つてR.I.有地兄のシュートG.K.股を拔きてゴールイン。八分L.H.小笠原よりの好パスL.H.周布ミスしてロールイン。ロールインの球をH.C.よりL.W.と攻めこまれたが、R.B.有地（弟）の好防危機を脫するもミカドのハーフ執拗に攻擊する。十二分院軍F.W.巧に敵のハーフラインを突破してチヤンスと思はれたが、L.W.周布オフサイドとなる。十五分院軍敵F.B.のスチツクにて自由打を得て攻込んだが惜しい所で得點にならずブリ二回繰返へす。十七分左側より反對に攻められ味方陣ブリL.H.小笠原防ぎL.I.北大路（弟）に渡り一氣に攻めたが、L.I.北大路（弟）のパスをR.I.R.W.共に逸してミカド陣五ヤードロールイン。R.H.植村、L.H.小笠原R.I.有地兄と渡るも得點に致らず。敵球を奪ひて左側より攻めこむも、L.I.オフサイドにて止む。後北大路（兄）より攻めたが、失敗。二十分一氣に返へされてミカドL.I.シュート後ゴールイン。（一對一）ブリの後押されたがR.B.中村の好防R.B.中村F.C.北大路（兄）L.W.周布L.I.北大路（弟）と渡つたが、敵R.B.にタックルされ、二十七分、再び敵猛烈なる逆襲を試むも、R.H.植村の好防よく危機を脫す。F.W.その球を得るやL.W.周布L.I.北大路（弟）よくパスして敵のサークルに入りL.I.北大路（弟）シュートG.K.止むも、F.C.北大路（兄）突込み早くゴールイン。（二對一）三十分L.W.周布のパスR.I.有地兄シュートして危くゴールイン。（三對一）

其の後L.B.有地弟よりF.C.北大路に渡り、チヤンスと見へたが、オフサイドとなり、自由打をH.C.山田よく止めて逆襲するも、ハーフタイムとなる。

後半　三分F.C.北大路（兄）一人出たが、援兵來らず　一氣に戻されて我ゴール前に殺到H.C.山田等左右に彈き出すも敵よく頑張り危機續出するをR.I.有地兄見兼ねてサークルに入り、その球を持ち出してハーフラインを割つて出でL.W.周布に絶好のパス。ミカドハーフラインの歸りの遲いのに乘じ素早く攻めたがF.W.の連絡惡く、あたらチヤンスを逸す。八分P.C.L.C.C.B.を續いて得て頑固に攻め、H.C.山田R.W.副島よりのパスを佐藤ゴール直前にてシュートしてゴールイン。（四對一）。斷然壓す。ブリ右L.W.シュート僅にはずれ、再びブリ十三分。ミカドのL.W.ゆるく、彈いたがゴールイン、十四分本院P.C.を得、北大路（兄）止めて、有地兄シュートす。ミカドのG.K.之を止むもR.I.敏捷に突込み、ゴールイン、更に一點。R.W.オフサイド後より攻勢を取り

左より攻め込まれ危し。P.C.後撃退したがR.W.オフサイド、フリ、ヒットよく止め敵サークルに攻め込み、有地(兄)はセンターパスをF.C.輕いシュートにゴールイン。(六對二)。

二十二分。

二十五分ミカドL.W.より攻め込む餘裕あるにG.K.蹴りそこれて其の間にミカドのF.C.の爲にゴールイン。(六對三)

二十六分右側より攻め北大路兄、佐藤、周布を渡り周布のシュート成りゴールイン。

(七對三)

二十七分ミカド攻勢に出るを二十五碼ブリを繰返す中F.B.よりのパスを右より攻めたがロール、イン後R.I.オフ、サイドに返され再び押したがL.W.オフ、サイド。ミカドも續いてオフ、サイド。後三十分センター、ライン稍々押され氣味の所で混戰續いたが本院F.C.オフ、サイド。ロール、インよりの球をミカドのF.C.本院のC.H.R.H.L.B.を總なめに拔いてゴール、イン。間もなくタイム、アップ。斯くして七對四にて大勝す。

當日の院軍のメーバー。

R.W. 副島
R.I. 有地(兄)
C.F. 北大路(兄)
L.I. 北大路
L.W. 周布

R.H. 植村
C.H. 山田
L.H. 有地

R.B. 中村
L.B. 濤川

G.K. 澁谷

對成城戰 六對〇 敗

十月十二日、午後三時より本院球場に於て北大路久保田兩氏審判のもとに試合開始。

成城 6 {2—0, 4—0} 0 本院

此の日の戰路は記錄がないため略す。

當日の院軍のメンバー左の如し。

R.W. 副島
R.I. 佐藤
C.F. 北大路(弟)
L.I. 同路
L.W. 周布

R.H. 植村
C.H. 山田
L.H. 有地(兄)

R.B. 有地(弟)
L.B. 中村

G.K. 澁谷

射撃部報告

本年九月誕生してより部員諸兄の熱烈な鍊磨と之に加へて指導教官諸先生の絶えざる御援助とにより、どうやら他に伍するを得るに至つたのは、部今後の發展に、多大の力を致すものと深く感謝する次第である。次に本院射撃の在來の成績を揭げる事とする。

昭和三年度 學生射撃聯盟主催大會に於て中等科のみ出場四位を得。

昭和四年度 同じく聯盟主催の大會に高等科及中等科共に出場し、高等科は拓植大學、東京帝國大學につぎ、三百點をもつて第三位(二十五校中)を得。中等科は惜しくも第六位に止まつた。

昭和五年度 同じく聯盟主催の大會に出場し、高等科は第六位(二十五校中)に中等科は第四位を得。

昭和六年度 五月、中等科は、明治大學射撃部主催の全國中等學校大會に出場し惜しくも等外に落つ。六月十四日學生聯盟大會に高等科及中等科出場し高等科は明治大學、帝國大學に次いで、第三位を三百五十五點にて獲得、中等科もよく奮闘し同じ第三位を得て部組織の意盛となる。同日の成績(射撃順、得點下の賞は個人賞を表はす)左の如し。

1 矢吹(35)　2 海江田(41)賞
3 佐竹(35)　4 赤松(37)
5 川原(44)賞　6 内山(36)